

市長コラム

# 夢かなうまち おびひろ

## 「おいしい」給食

帯広市長 米沢 則寿



パンが焼き上がる「おいしい」香り。4時限目になると、教室にも漂ってくるパンの香ばしい香りにお腹が空いてきたことを思い出す。私が子どもの頃の給食は、学校ごとに校内で単独調理する自校方式が主流でしたが、児童生徒数の増加などに伴い、帯広市をはじめ、共同調理によるセンター方式を採用する学校が、全国で6割を占めるようになりました。

大量の給食を効率的につくることができるセンター方式。統一した衛生基準の確保や安定した食材調達が可能となる一方、レポートリーの充実や配送時の温度管理などといった課題があるといわれてきました。

平成27年に移転・新築した市のセンターでは、小中学生約1万2千人分の給食をつくり、市内全校に届けています。移転により最新の設備を導入したことで複数メ

ニューの同時調理が可能となり、高い衛生管理基準に対応しながら、提供をおかずの品数を増やせるようになりました。また、食缶など器具類の保温性が高まり、より温かく提供できるようになりました。当時、特にこだわったのは、看板となるような新メニューの開発で、「いのちのスープ」教室で有名な料理家、辰巳芳子さんのお話を伺ったりしました。そして、市内ホテルの料理長に考案いただいたのが、帯広ならではの「オビリースープ」です。

戦後、我が国は、高度経済成長を遂げる過程で、質より量が優先され、短時間でより多くのモノを生産しようと、効率性や合理性が追求される社会となりました。しかし、モノがあふれる現代では、質の良さに豊かさを感じたり、環境に配慮した消費活動が重視されるなど、人々の価値観も変化しています。こうした考え方は、コロナ後、一層、広がっていくのではないのでしょうか。

先ほど紹介したオビリースープは、職員がいつもより30分早く出勤し、十勝産食材をふんだんに使い、時間をかけてじっくり煮込むことで出来上がります。

大人の私たちが、効率性だけではなく、時間やひと手間をかける視点も大切にする。やがて、それが子どもたちの「おいしい」、そして、まちへの愛情、誇りにつながっていくと感じます。

帯広の給食における「おいしい」や「ひと手間」とは何か？子どもたちが大人になった時に「給食って、おいしかったね」と思い出してもらえらる給食を、みんなで考えていきたいと思えます。



# 家庭でできる 生ごみ減量

9月12日(月)～10月31日(月)は 秋のごみ減量・資源化促進月間

問い合わせ 清掃事業課 (西24北4、☎37・2311)

市民の皆さんのご協力により、ごみの減量と資源化が進んでいます。令和3年度のごみの総排出量は5万4815トンで、前年より約1100トン削減となりました。

## 「3キリ運動」で 生ごみを減らそう！

ごみをさらに減らすため、家庭から出る燃やすごみの約半分を占める生ごみの減量にご協力をお願いします。

### 「使いキリ」

- ①定期的に冷蔵庫をチェックし、消費期限切れになる前に食材を使い切る
- ②買い物前に在庫をチェックし、必要な分だけ購入する
- ③食材を正しく保存する

### 「食べキリ」

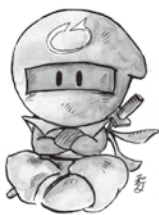
- ①食べきれない量だけ作り、残さず食べきる
- ②料理が残ったら冷蔵・冷凍保存や、アレンジして別メニューを作る
- ③外食の時は、食べきれない分だけ



いる！ 買える！ 無駄な物は控えて！

注文し、残さず食べる

ロスなく！ 食品をなくさない！



### 「水キリ」

- ①野菜のヘタなどは洗う前に切り落とし、食材に付着する水分を減らす
- ②生ごみを出す前に、ひとしぼりする
- ③お茶がらや果物の皮などは、一晩おいて乾燥させる

乾燥させると、虫や臭いの発生を抑えられるぞ！



**ダンボールコンポストで生ごみ削減！**  
ダンボール箱に生ごみを入れて堆肥化する「ダンボールコンポスト」の作り方を、市ホームページで紹介しています。



市ホームページ ID.1002793



# 秋はヒグマ出没に 注意！

八千代・拓成・岩内方面に多く生息

問い合わせ 農村振興課 (市庁舎7階、☎65・4173)

秋は、キノコ採りなどで野山に立ち入る人も多く、ヒグマとの接触が多くなるシーズンです。野山はヒグマの生息域であるという心構えを持ち、新聞やテレビ、市ホームページなどでヒグマの情報を確認しましょう。



市ホームページ ID.1003094

▲ヒグマ出没情報

## ヒグマと出会わないために

ヒグマは本来、極力人間を避けて行動しますが、私たちの方から近づかないために、次のことに気を付けましょう。

- ・日の出、日没時などの薄暗い時間帯は野山に立ち入らない
- ・複数人で行動する
- ・鈴やラジオなど音の出るものの携行、大声で話す、車のクラクションを鳴らすなど、人間の存在をヒグマに知らせる
- ・ヒグマのふんや足跡を見かけたり、臭いなどを感じたら直ちに引き返す

## それでも出会ってしまったら

ヒグマと遭遇したときに、確実に身を守る方法はありません。一番大事なことはヒグマと出会わないことですが、もし出会って

## 特に注意が必要な地域

八千代・拓成・岩内方面では、ヒグマの生息が確認されています。戸蔭別川での釣りや、防風林・森林内は、十分に注意してください。

万が一、ヒグマを見掛けられたら、安易な気持ちで近づかず、自分の身の安全を確保することを第一に考え、行動してください。

## クマの足跡



出典：北海道環境生活部環境局 自然環境課作成リーフレット